

追悼

若手リーダーとして敏腕を発揮された日々 —— 矢澤昌司さん追悼

会員 松田 純一



故 矢澤昌司 会員
2006年7月10日ご逝去・49歳
2004年度東京弁護士会副会長

矢澤昌司さんは、慶応大学法学部法律学科を卒業し、福岡修習を経て、福岡県弁護士会に3年間登録。惜しまれながら、東京で税理士を営むご尊父との関係もあり、東京弁護士会へ移籍し、法友会および法友全期会に所属しました。

その後、矢澤さんが、日弁連調査室長、東弁副会長を歴任し、昨年からは日弁連事務次長を務め、日本司法支援センター対応室長として奔走しておいでだったことは皆さんご存知のとおりです。

矢澤さんが、弁護士登録後15年目までの会員1000人を超える若手の任意団体である法友全期会で、2003年度、代表幹事をなさったときに、私は事務局長をさせていただきました。矢澤さんが、若手のリーダーとして、法律相談センター、少年事件の全件付添の実現などに敏腕を発揮されたことは昨日のようです。法の支配を全国津々浦々へと、ひまわり公設事務所、あるいは司法支援センターへ出向こうとする若手への配慮を持ち続けておいででした。国際視察として現地で頑張る若手弁護士を激励するためにカンボジア・ベトナムも踏破されました。

若手とともに、食べ、飲み、歌い、語らう毎日でした。

享年わずかに49歳。幾多の春秋と、奥様、二人のお嬢さん（中3、小6）を残して急逝されました。中学校3年の最後の大会だと、お嬢さんのバスケットボールの応援のために大きなビデオとデジカメを抱えて、「準決勝で負けちゃったよ」と笑う矢澤さんと、大会場そばで偶然出合って立ち話をしたそのわずか10時間ほど後、まさか救急車で病院に運ばれて、ご挨拶すらできないまま逝ってしまわれるとは思ってもありませんでした。

ご多忙極める中で、最後にお嬢さんが元気にコートを走り回る姿を目に焼き付けて、そして目を閉じられたかと思うと、胸がいっぱいになります。いつもご家族の話をされ、ご家族を愛した矢澤さんが、ご家族と過ごされた最後のこの一日の想いを抱き、そして想いを残して旅立たれたことに、せめてもの救いを感じます。

矢澤さん。悲しみは深く尽きません。しかし、矢澤さんは楽しいことが大好きで、前向きな方でした。どうぞ安らかにお休みください。そして見守り続けてください。